

に齎した所の影響は極めて大である。從來希臘の養蠶業なるものは極めて微々たるもので、殊に十年に互る戦亂はこの國の生氣を奪ひ、その産業を萎縮せしめたのであつたが平和の克復と共に小亞細亞に於ける養蠶の中心地たるブルサ其他から失業した熟練職工が多数に入り込んだ結果マセドニア及び西部スレーヌを中心として養蠶業が發達し、一九二一年には全國を通じて繭の産出高三百八十萬九千六百五十五封度、一九二三年には四百五十三萬三千二百五十封度、一九二四年には五百六十六萬封度を算するに至つた。一九二四年に於ける産出が一躍百萬封度以上の増加を示してゐるのは主として土耳其からの避難者の活躍に依るもので、それは政府の指導監督が適當に行はれたためでもあるが、その發展の大部分は避難者自身の奮闘に基因してゐるものである。アテネ商業會議所最近の調査報告に依る今日に於ける希臘の養蠶中心地はセツサリー、スレーヌ、マセドニア、ペロポネサス、ユーボイア島及びクリート島で、セツサリーのチルナヴォに産するを最上とし、ユーボイアのキミに産するものは主として蠶種の製造に使用されてゐる。しかし希臘國內に於て製絲作業に附せられる量は極めて小で、大部分繭として佛蘭西(マルセユ)及び伊太利(ミラン)へ輸出されてゐる從來ブルサから蠶種の供給を受けてゐた波斯及びコーカサス地方に對し最近希臘がその輸出を開始してゐるのも注意すべきことである。

(Commerce Reports August 24, 1925 Bureau of Foreign and Domestic Commerce, U. S. Department of Commerce.)

新刊紹介

○耐震耐火的
建築土木原料土石と其利用 曾我 奎祐著

早稻田大學出版部發行 定價參圓五十錢

本書收むる所の土石礦物は石綿、石膏、硅藻土、滑石、菱苦土、重晶石、火山灰及びアスファルトの八礦物で、過般の大震災による損害の程度から考へて今後の土木建築に最も必要な原料に就きて記載したものである。然し此等の礦物利用に對しては獨り土木建築に關する事項ばかりでなく、一般に其利用の途を詳説して居る。猶吾人の多とする所は各礦物の産地及産出状態の條下に於て從來公表されたものを残りなく蒐集してあるのに加へて多くの専門家が未だ發表するに至らなかつた材料を獲て之をも編述した所にある。それで讀者は日本朝鮮支那に互つて各種礦物の存在、其の利用されべきや否やの點まで明亮に知る事が出来るのである。性状や加工法に對しても親切に詳細に説かれてあるから一斑の知識をも之によつて獲得する事が出来る。本書は書名の建築土木に必要である許りでなく、各種の工業家によりて参照せらるべきものである。本書の性質が以上の如きものであるから礦物、化學、經濟、地理等の授業に従事してゐる教育者に對しては稀に見るの好參考書である。礦物の中でも金屬礦物の様に人から大切に考へて居られぬ土石類について充分な知識を得る事は文化促進の意義から見ても

も必要なことであると思はれる。(中村)

○富士山の自然界

著作兼發行者山梨縣

代表者 石原初太郎

發賣所 東京市日本橋區本銀町三丁目 東京寶文館

本文四六版二一六頁、寫眞銅版圖四十一葉、色刷圖五萬

一、富士山地質圖外三葉挿入、定價金壹圓五拾錢

富士山の紀行、地圖案内書は、隨分澤山あるが、携帶に便利で、且つ相當の科學的説明記述があり、自然の禮讃も亦編み込まれてあつて、自然研鑽者の渴を醫するに足る様なものが從來殆んど無かつたのは、目今山岳熱の旺盛な際、この海内無二の名山に對し、頗る遺憾に堪へない所であつたが、本書は其要求に應ずべく出來たもので、主として山梨縣囑託石原初太郎氏の筆に成り、先づ吉田口から初めて、富士東北麓の氣象や、岩質林相等を叙述し、史的沿革や、墨客の詩歌を其間に點綴し、山中湖から精進湖、本栖湖に及び、次に最近山梨縣が開鑿した精進口登山道を紹介し、新發見の側火山、洞穴、噴氣孔等の火山現象を洩らさず説明し、更に中腹以上御鉢廻りや中道廻りの所見を説くこと懇切で、しかも面白く、最後に富士山の形態地質、植物や噴火の歴史を要領よく書き列れ、筆を氣象に結んである、數多の寫眞銅版の圖中には鮮明を缺くものが往々あるのを、富士山南側即ち静岡縣に屬する部分の記事が少ないのは一寸物足りない様な氣がするが、山梨縣から發刊したのだから是非もあるまい、兎に角從來の俗眼的の案内書さは全く其撰を異にし、携帶にも便利に出來て居て、鮮明な地質圖が添へてあり、氣象

や、岩石、地質、植物等に趣味を有する登山者には絶好の伴侶であるのみならず、苟くも富士山を知り度いと思ふ者は是非一讀すべき參考資料である。(藥山生)

○丹那盆地附近地質調査報告

鐵道省熱海建設事務所

本報告は平林武博士の「丹那盆地ノ地質調査報文」及び渡邊實理學士の「丹那盆地地質調査報告書」の二部よりなり、數葉の地質圖及地質断面圖を有する美しき報告である。丹那盆地の地質構造は先きに横山博士、脇水博士其の他に依つて屢々發表せられ大いに議論された所であるが未だ決論に達せられないものであつた。然し隧道工事は刻々進んで行くので、此の問題を未解決の儘に残して置く事は出来なかつた。其處で大正十三年三月より大正十四年二月までの間に丹那盆地中四個所に金剛石試錐を下し其の結果に基いて本報告が作られた。兩者論ずる所大同小異であるが、最後に平林博士は此の儘工事を進めて丹那盆地を貫き得べき事を期待し、渡邊學士は自己が工事現場にあるが故か、丹那盆地の地下水調査を更に徹底せしめたい希望を述べて居る。

本報告に報ずる所の主要なる點は丹那盆地が爆發火口又はマールではなくして一の南北に延長した地溝の一部であつて、之を構成する斷層は主要なるもの數個の外に無數の小なるものを有し、本盆地は生成の初め一時湖水となり、湖水沈積物は盆地東方に於いて三十四米に及んで居る。而して現今此の盆地下に貯藏せらるゝ水量は毎秒五十立方を流して卅日間に排出し得

る量を有し、脆弱なる斷層に沿ひて此の水が此の地下隧道中に流下する時は側壁を崩壊せしむべき事が注意され、渡邊學士は其の状態は既に遭遇せしものよりも更に甚しかるべきを憂へて居る。次に本地溝地下温度測定の結果は地表にて攝氏一四・七度なる時地下六〇七尺に於いて一九〇度に達し、通常の地温増加率と多く異なる所なく、地温高騰の爲め工事不能に陥るが如き事なきことが決定された。斯くの如くにして久しく問題であつた丹那盆地の成因は略明らかにせられた事は大いに慶賀すべき事である。又本報告は斯る大規模なる土木工事に於いては地質調査を充分に行ひ、工事中に遭遇すべき事件を豫知して之れに備へる事の必要を痛感せしめるものである。本報告中下丹那を中心せる小圓形の凹みと其の外帯に圓形をなす山梁が呈する地形に對し渡邊理學士が僅に馬蹄形斷層を引かれたるに止め、兩氏とも何等論ぜられたる處なきは些か遺憾とする處である。評者をして言はしむれば、此の地形は甚だしく輕視すべきものではない様である。(本問)

質 疑 應 答

問 スコットランドの自然地理を説明せよ。(文檢問題)

答 スコットランドは英國の北部を占め、大部分北緯五十五度以北にあり、面積はオークニー、シェトランド、ヘブリヂス其他の屬島を合せて二萬九千八百方哩、英國の約四分の一に當る。

自然地理並に地體構造上より、北部及西部山地、中央低地、南部及東部高地の三區域に分ち得。これ等三區域の境界は西南より東北に併走する斷層線によつて明かに區別される。即ち中央低地は斷層線に沿ひて低下せるもので、主として石炭紀の堆積物により、これより北方の山地及南方の高地は更に古き地質時代の岩石によつてつくらる。第四紀の初めに於てスコットランドは全部氷河に蔽はれしを以て海岸其他の地貌、湖沼等、氷河作用を蒙るものが多い。氷河退却後土地は隆起して海岸に段丘をつくり、海岸の都市はこの段丘を利用してゐる。

(1) 北部及西部山地 クライド灣 Firth of Clyde より東北に向ひ北海岸のストーンヘブン港の東に至る線以北にして、平均五百米の山地である。主としてプレカンブリアン代の片麻岩又は結晶剝岩、之を貫く花崗岩によつて構成さる。山地は東北より西南に走る大グレン溪谷 Great Glen (又はカランドニヤ溪谷) 及びミンチ海峡によつてグラムロイヤ山地 Grampian highland、カランドニヤ山地 Caledonian highland 及びヘブリヂス諸島 Hebrides Is. の三山地に分かる。GRAMBETHA山地は最も南にあり、英國最高のモンネクス Ben Nevis (一三四三米)、モンイクザニイ Ben Macdui (一三〇〇米)等の高山をつくり、交通不便の山地であるがテイ川、ドイー川等の谷が通路として利用され、テイ川上流地方には狭長なる湖沼が多い。GRAMBETHA山地の北は大グレン溪谷で東北にはモレイ灣 Moray Firth 西南にはローン灣 Firth of Lorn があり、その間の低地にはネス湖、ロチ湖等數個の狭長なる湖沼があつて、これ等の湖沼を利用してカランドニ